

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 17 日現在

機関番号：34309

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18262

研究課題名（和文）近現代イランにおける聖地・聖廟の変容

研究課題名（英文）The Transformation of sacred places and mausoleums in modern Iran

研究代表者

杉山 隆一（Sugiyama, Ryuichi）

京都橘大学・文学部・准教授

研究者番号：70788570

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：2020年以降のコロナ禍で研究成果を期間内に論稿の形で刊行することはできなかった。ただし、研究計画内に挙げたゴムの聖地ジャムキャラーンの20世紀における発展に関する研究については、入手した史料を使用し近いうちに報告と論文の刊行を行う。発展の要因としては、イラン革命前から顕在化してきたマフディー重視の思想や、90年代以降の保守派による社会のイスラーム化の強化などが考えられる。また、近代以降の聖廟の変容については、主に近代以降イマーム・レザー廟をテーマとして数度の報告を行い、特に廟運営組織やワクフ運営の近代化につき、その移行過程と実際の運営の実態を明らかにしてきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はこれまでほとんど検討の対象とならなかったイラン地域における近代以後の聖地・聖廟に関し、特に2000年代以降のイラン政治の変容の中で聖地として台頭してきたジャムキャラーン・モスクや、イラン随一のシーア派聖廟であるレザー廟の組織やワクフ運営の変化に主に焦点を当てたものである。本研究の成果は近代以降のイランにおける政治と宗教について、聖地・聖廟という新たな視座からの分析を行った点で独自性が高いと言える。本研究は、近現代イランの政治にとって重要度がますます高まりをみせつつある聖地・聖廟の存在を包括的に検討するための基礎として位置付けることが可能であろう。

研究成果の概要（英文）：Due to the Covid-19 pandemic after 2020, I could not publish the results of my research in the form of papers within the research period. However, I am almost ready to publish a research paper on the development of Jamkharan mosque, located at the holy city of Qom, in 20th century Iran, using the available historical materials. The factors that led to this development as a sacred place include the emphasis on the Mahdi that emerged before the Iranian Revolution and the strengthening of the Islamization of Iranian society by conservatives since the 1990s. With regard to the transformation of the mausoleums since the modern era, I have made several reports on the theme of Imam Reza's mausoleum and have clarified the transition process and actual operation of the mausoleum, especially the modernization of the management organization and waqf management.

研究分野：イラン史、イラン地域研究

キーワード：イラン史 イラン地域研究 聖地聖廟 シーア派 マシュハド ゴム

1. 研究開始当初の背景

近現代イランにおける聖地・聖廟では、国民国家形成の過程において新たな役割の付与や経済・教宣面等で先の時代には見られなかった活動が確認される。こうした変化は、聖地・聖廟を体制の強化及び国益確保のツールとして活用するために政治権力側がもたらしたものと考えられる。しかし、同国の聖地・聖廟の近現代の変化に関して、具体的な事例に基づいた実証的な研究は未だ少ない状況にあった。近代以降のイランにおける国民国家の形成過程の中で聖地・聖廟が具体的にどのような役割を果たしてきたかを検討することで、聖地・聖廟という視点からイランにおける政治と宗教の関係の一端を明らかにしようとしたのが本研究であった。

2. 研究の目的

上記のような問題点を明らかにするために、本研究では立憲革命以降の聖地・聖廟に関する法整備の過程と成立した法の検討、聖地・聖廟の影響力を国益に転化する制度等の解明を目的とした。加えて、国民国家形成過程で政治権力がもたらした聖地・聖廟の実際の変化、中でも(A)聖地・聖廟の運営や活動、寄進財開発に関する変化、(B)イスラーム革命後に新たに重要視された聖地・聖廟とその変容につき考察も行うことも目的とした。この(B)ではイラン中央部のゴム州ゴム市に位置するジャムキャラーン・モスクを検討の対象に想定した。本研究は、近現代イランにおける聖地・聖廟の役割を明らかにするのみならず、中東圏をはじめとした他地域の聖地・聖廟のあり方との比較の土台を構築していくことも視野に入れるものであった。

3. 研究の方法

本研究では、新聞をはじめとした定期刊行物、議会議事録と議会関連文書、聖地・聖廟に関わる文書などの史資料を収集し、その史資料の丹念な読解に基づいて上に掲げた問題について明らかにしようとした。本研究の進展にとっては史資料の収集が決定的に重要であったのだが、現地イランでの複写許可獲得の失敗や、2020年以降のコロナ禍、加えて期間内での本人の2度の所属変更などにより、当初の計画通りに進めることができなかった。そのため、辛うじて入手することができた定期刊行物史料(PDF化された新聞を収録したDVDなど)、議会議事録、それぞれの聖地・聖廟に関連する史資料に基づいて研究を進めることを余儀なくされた。

研究成果については、自身が参加していた研究プロジェクトでの報告会などで報告を行った上での論文化を目指した。特に2020年2月にシンガポールで開催された東洋文庫とシンガポール国立大学の共催による宗教寄進に関する国際シンポジウムでの報告で得られたコメントは、研究の精緻化に大いに寄与するものとなった。

4. 研究成果

研究成果としては、上記の(A)に関連して19世紀以降のイマーム・レザ廟をテーマとした研究報告を2度行った。上述の2020年2月のシンガポールでの宗教寄進の国際シンポジウム(Cross-Cultural and Comparative Study of Donation, Endowment and Benefit [A joint symposium by Asia Research Institute, National University of Singapore, and Toyo Bunko, Japan])では“Vaqf and Modernization in Iran: A Case of the Mausoleum of Emam Reza under the Islamic Republic of Iran”なる題目で報告を行い、イスラーム革命後のイマーム・レザ廟におけるワクフ運営の変容を検討した。寄進されたワクフ財に関し、廟運営のために収益の拡大への取り組みや、収益を用いた国家が掲げる宗教イデオロギーの教育・宣伝活動などを検討の対象とし、同廟の革命後の変容と政権との関係を考察した。また、同じく2020年の2月に行われた研究プロジェクトの研究会(東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究」2019年度公開研究会)での報告「ガージャール朝期のイマーム・レザ廟」では、近代化が進んだガージャール朝時代のレザ廟について、廟組織の拡大や支配権力による職員任命を軸とした運営への干渉、ワクフ寄進の増加によって廟が慈善・教育などの事業をさらに拡大させ、シーア派の宗教複合体としてさらなる発展を遂げていったことを明らかにした。双方のうち、後者については論稿化する準備を整えつつある状況にある。

上述の(B)でテーマとして掲げたジャムキャラーン・モスクの研究、ならびにに掲げた聖地・聖廟に関する法制度の制定・変容については、コロナ禍で史資料収集が十全に行えなかつ

たため、研究報告を行うことができなかった。ただし、このうち前者に関しては、発展の要因としてイラン革命前から顕在化してきたマフディー重視の思想や、90年代以降の保守派による社会のイスラーム化の強化などを裏付けるにまで至っている。こちらについては近いうちに研究報告を行い、今年度中に論文の投稿を目指したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 5件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 杉山 隆一、スギヤマ リュウイチ、SUGIYAMA Ryuichi	4. 巻 1
2. 論文標題 カージャーナル朝期作成のイマーム・レザー廟に関するワクフ関連史料をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究 別冊 (Journal of Asian and African Studies, Supplement)	6. 最初と最後の頁 111 ~ 127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/117345	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 178
2. 論文標題 アフシャール朝期のイマーム・レザー廟 - 『アリー・シャーの巻物』から見る18世紀イランにおけるイマーム廟の組織と運営 (II) -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 436-396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 177
2. 論文標題 アフシャール朝期のイマーム・レザー廟 - 『アリー・シャーの巻物』から見る18世紀イランにおけるイマーム廟の組織と運営 () -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 139-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079137	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugiyama Ryuichi	4. 巻 11
2. 論文標題 The Mausoleum of Imam Reza under the Islamic Republic of Iran: The Administration and Activities of the Twelver Shiite Imamate Mausoleum in Iran	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Islamic Area Studies	6. 最初と最後の頁 60-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 713
2. 論文標題 イランにおけるシーア派聖廟の発展 - 第8代イマーム、レザーの廟を事例に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 51-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉山隆一	4. 巻 90
2. 論文標題 書評と紹介: MORIKAWA Tomoko and Christoph WERNER (eds.), Vestiges of the Razavi Shrine -Athar al-Razaviya: a Catalogue of Endowments and Deeds to the Shrine of Imam Riza in Mashhad, Tokyo: The Toyo Bunko, 2017.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 イスラム世界	6. 最初と最後の頁 71-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugiyama Ryuichi	4. 巻 34-1
2. 論文標題 Book Review: Christoph Werner, Vaqf en Iran: Aspects Culturels, Religieux et Sociaux, Leuven: Peeters Press, 2015	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annals of Japan Association for Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 113-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件(うち招待講演 5件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 杉山隆一
2. 発表標題 サファヴィー朝最末期におけるイマーム・レザーの奇蹟譚をめぐって
3. 学会等名 東文研シンポジウム「ムハンマドの血筋とムスリム: 預言者一族をめぐる多様な語りと語り手たち」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SUGIYAMA, Ryuichi
2. 発表標題 Tarikh-e Astan-e Qods-e Razavi az Manzar-e Yek Mohaqeqq-e Zhaponi
3. 学会等名 Selsele-ye neshast'ha-ye zhapon-shenashi-ye doshanbe'ha-ye akhar-e mah, neshaste-ye bistom, Daneshkade-ye motale'at-e jahan, Daneshgah-e Tehran (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉山隆一
2. 発表標題 アジアの歴史と現在
3. 学会等名 慶應義塾大学文学部主催 「文学部公開講座：文学部のひらく世界」 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SUGIYAMA Ryuichi
2. 発表標題 Vaqf and Modernization in Iran: A Case of the Mausoleum of Emam Reza under the Islamic Republic of Iran
3. 学会等名 Cross-Cultural and Comparative Study of Donation, Endowment and Benefit (A joint symposium by Asia Research Institute, National University of Singapore, and Toyo Bunko, Japan) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉山隆一
2. 発表標題 ガーシヤール朝期のイマーム・レザー廟
3. 学会等名 東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所 共同利用・共同研究課題「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究」2019年度公開研究会「アルダビール再考：前近代イランにおけるタリーカ・聖者廟・都市」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 SUGIYAMA Ryuichi
2. 発表標題 Nader Shah 's Urban Development Project in Mashhad during the Afsharid Period
3. 学会等名 Comparative Studies of Islamic Areas: New Actors, Fresh Angles (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉山隆一
2. 発表標題 イランにおける聖廟をめぐる：同国のシーア派信仰と社会
3. 学会等名 認定NPO法人かわさき市民アカデミー主催講座・2018年度前期エクセレントI 『世界を旅する イラン・ツアー』（市民講座）（招待講演）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 杉山隆一（鈴木董（編））	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 376
3. 書名 侠の歴史 西洋編 上+中東編 （分担執筆箇所：フサイン：「正義」を貫いたシーア派イマームと信徒が語り継いだその記憶）	

1. 著者名 杉山隆一（担当箇所：「アジアの歴史と現在」）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 慶應義塾大学文学部	5. 総ページ数 62
3. 書名 極東証券株式会社寄附講座 慶應義塾大学文学部公開講座2019 文学部のひらく世界 （うち執筆分「アジアの歴史と現在」）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

杉山隆一特任研究員、イラン・イスラーム共和国文化イスラーム指導省より表彰
<https://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=ThuJul151033142021>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------